

みかんでつながる心

茨城県水戸市立常磐小学校 五年 菊池 颯真

お正月、お年玉といっしょに大きくてつやつやのみかんをひいおばあちゃんがくれた。ぼくの名前も、こうして会いに来たことも何時間かすればわすれてしまうひいおばあちゃん。さつそくみかんを食べる横で、ぼくのことをだれだろう、とじつと見つめてきた。

ひいおばあちゃんはみかんが大好きだ。家にはかごいっぱいのみかんがあり、こうして来てくれた人に必ずみかんをわたしてくれる。ぼくはちょうどみかんのさいばい方法を勉強した所だったので、ひいおばあちゃんにみかんはどのようにして作られ消ひ者の手にわたるのか説明してあげることにした。なるほど、とうなずきながら説明を聞くと、ひいおばあちゃんも自分が住む大子町ではりんごの生産がさかんなことを話してくれた。くだもの話をしているうちに、ひいおばあちゃんはぼくの名前を思い出したようだった。まるでみかんがまほうをかけてくれたかのように、ひいおばあちゃんはぼくの名前をよんでくれていた。昔からあるみかんはおいしいだけじゃない。ぼくとひいおばあちゃんの気持ちも結んでくれたようだった。

くだものの国内生産一位のみかんは最近とてもあまくなっているそうだ。気候やその土地の特色をいかし、さまざまな場所でおいしいみかんを食べられるように今日もみかん農家のみなさんが働いている。ひいおばあちゃんがこれからも元気で長生きできよう、それと同じくらいぼくは農家のみなさんにもがんばれ、と応えんしたくなつた。みかんの一つぶ一つぶにはたくさんのお人の思いがこめられていることを感じながらぼくは今日も家族でおいしいみかんをいただくと思う。みかんの力があれば、わすれてしまったぼくの名前をひいおばあちゃんがまた思い出してくれると信じ、今度はぼくがひいおばあちゃんにみかんをプレゼントしよう。